

職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名	設置認可年月日	校 長 名	所 在 地		
せいとく介護こども 福祉専門学校	昭和51年4月1日	高 田 研 司	〒064-0811 札幌市中央区南11条西8丁目2番47号 (電話) 011-512-1321		
設 置 者 名	設立認可年月日	代 表 者 名	所 在 地		
学校法人 成徳学園	昭和39年3月27日	高 田 研 司	〒064-0811 札幌市中央区南11条西8丁目2番47号 (電話) 011-512-1321		
目 的	教育社会福祉との綿密な連携を通じ、より実践的な職業教育の質と確保に組織的に取り組み、卓越した実務の知識・経験に基づく高度で専門的かつ実地的な知識・技術等を身につけ、教育社会福祉施設に必要な実践的な能力を育成するための専門課程を創設することを目的とする。				
課 程 名	学 科 名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に 必要な総授業時 数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与
教育社会福祉	介護福祉科	2年(昼)	1,940単位時間	平成6年文部省 告示第84号	
教育課程	講義	演習	実験	実習	実技
	950単位時間	540単位時間	単位時間	450単位時間	単位時間
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
160人	51人	6人	32人	38人	
学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日	成績評価	■成績表(有・無) ■成績評価の基準・方法について 筆記試験(60点以上) レポート、実技、授業態度		
長期休み	■学年始め：4月1日～4月2日 ■夏季：7月27日～8月19日 ■冬季：12月20日～1月19日 ■学年末：3月20日～3月31日	卒業・進級条件	教育課程の定めるところにより、各学年ごとに修了すべき学科目について試験を行い、合格者に対して当該学科目の修了認定をし、進級・卒業とする。		
生徒指導	■クラス担任制(有・無) ■長期欠席者への指導等の対応 面談(個別・保護者)、居住先訪問	課外活動	■課外活動の種類 手話・バスケット;バレー ■サークル活動(有・無)		
主な就職先	■主な就職先、業界 高齢者施設(特別養護老人ホーム等) 障がい者支援施設等 ■就職率 100.0%	主な資格・検定	介護福祉士 レクリエーション・インストラクター		
中途退学の現状	■中途退学者 1名 ■中退率 1.9% 平成26年4月1日在学者 53名(平成26年4月入学者を含む) 平成27年3月31日在学者 52名(平成27年3月卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 ・進路変更 ■中途退学防止のための取組 ・クラス担任制、実習・就職のための学力確認試験・基礎学力を含めた補習、個別面談、保護者面談、教育相談日設定				
ホームページ	URL:www.seitoku-g.ac.jp				

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

教育福祉施設及びその他の関係機関との連携を充実させ、情報の共有や社会的ニーズの把握・分析を通して、地域や学校の教育方針をいかした特色ある教育課程の編成や効果的な教育方法の改善・工夫を行い、実践的かつ専門的な職業教育の基盤づくりに努める。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成27年4月1日現在

名 前	所 属
福 島 義 典	一般社団法人北海道介護福祉士会 副会長
瀬 戸 雅 嗣	特別養護老人ホーム 栄和荘 施設長
柴 野 邦 子	光星はとポッポ保育園 園長
大 澤 真 平	札幌学院大学 准教授
高 島 裕 美	拓殖大学北海道短期大学 助教
高 田 研 司	せいとく介護こども福祉専門学校校長
野 村 昌 昭	せいとく介護こども福祉専門学校副校長
奥 寺 光 子	せいとく介護こども福祉専門学校教諭
町 田 幸 作	せいとく介護こども福祉専門学校教諭
上 田 強 志	せいとく介護こども福祉専門学校教諭
浦 田 日出雄	せいとく介護こども福祉専門学校教諭
中 村 和 恵	せいとく介護こども福祉専門学校事務長

(開催日時)

第1回 平成27年7月9日

第2回 平成28年1月21日(予定)

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

施設現場において、学生が介護を実践的に学ぶために、挨拶など人と接するための基本や、チームワークにおける報告・連絡・相談などの心構えを十分に備え、さらに学習目標を明確に設定したうえで、有意義な実践を行えるよう事前学習を徹底する。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
介護実習Ⅰ	介護施設における見学や体験を通して、要介護者・介護技術・施設機能を理解し、個別ケアにおいて根拠を踏まえた介護実践をするための基礎を学ぶ。	慈啓会特別養護老人ホーム、西円山敬樹園、信寿園、菊水こまちの郷、みどりの丘ほか 合計18施設
介護実習Ⅱ	入所型介護施設における長期の実習を行い、利用者の様々なニーズに対して、機能のある介護実践や個別ケアを学ぶとともに、さまざまな職種との協力のあり方や統一された援助方法について理解を深め、介護職の役割を理解する。	慈啓会特別養護老人ホーム、西円山敬樹園、福寿園、清明庵、サンビオーズ新琴似ほか 合計17施設

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

・教科や教育課題への対応など授業力と実践的生活指導力の向上を図るため、資質向上及び専門性を高める研修を実施する。

・実務に関する研修は、社会的ニーズの把握をした上で、施設等から講師を招いての研修や勤務経験年数に応じて職能団体等への研修への参加を実施する。また、職能団体等への研修に参加した場合は、学内で学科の専任教員・非常勤講師に対して研修についての講話を実施し、授業に関連した領域でグルーピングした教員・非

常勤講師間での知識等の交流と確認を行う。

- ・全国介護福祉士養成施設協会等が主催する研修会の参加教員が、全職員に対して伝達講習を行う。
- ・指導法の研修は、年度当初、小学校校長経験者による師範授業「学生の集中力を高め、実感の伴った学びを作る」を実施、教員及び非常勤講師が自由参観できる体制を作る。また、12月終了時にすべての科目について学生による授業評価を行い、後期の授業改善に生かしたり、学生の授業評価に基づき、評価の高い教員を選出し、各科の特性に基づきながら指導を工夫している授業を講師及び非常勤講師が自由参観できる体制を作り、再度後期に学生による授業評価を行い、個々の教員の改善努力等を検証する。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成27年4月1日現在

名 前	所 属
岸 本 隆 美	特別養護老人ホーム 青葉のまち 施設長
瀬 戸 雅 嗣	特別養護老人ホーム 栄和荘 施設長
柴 野 邦 子	光星はとポッポ保育園 園長
青 木 孝 志	障害者支援施設 白石かがやき園 施設長

(学校関係者評価結果の公表方法)

URL: www.seitoku-g.ac.jp

5. 情報提供

(情報提供の方法)

URL: www.seitoku-g.ac.jp

授業科目等の概要

(教育社会福祉専門課程介護福祉科) 平成26年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			人間の尊厳と自立Ⅰ	人間の尊厳とは何かを十分理解し人との関係で必要な倫理観を醸成し介護実践にそれを活かしていく力を養う。	1後	15		○		
○			人間の尊厳と自立Ⅱ	1 介護のための人間理解を進める。 2 介護における自立支援の方途を考える。	2前	15		○		
○			コミュニケーション概論（人間関係とコミュニケーション）	1 介護者に求められるコミュニケーションの基礎的な能力を養う。 2 他者を理解するために、自分の価値観と多様な価値観について理解を深める。 3 コミュニケーションの知識や技術がなぜ介護の現場で求められるかを理解し、多様なコミュニケーションの実際を学ぶ。	1前	30		○		
○			社会の理解（家族福祉論）	1 現代日本の実状を、自分の家庭をモデルに理解する。 2 家族の役割と意義について、例題を通して理解する。 3 自分がこれから築いていく家庭と家族について考える。	2後	15		○		
○			社会の理解（地域福祉論）	地域福祉とは何かという基礎概念を理解し、関係する各種理念・概念・理論について理解する。また、地域福祉という概念の発展過程について、国内外の歴史と共に理解を深める。その上で、地域福祉に関係する法制度、技術、ヒト、モノなどが、具体的なサービス提供過程において、どのような形で関与しているかについて理解する。	2前	15		○		
○			社会の理解（社会学概論）	テキストの流れにそって、はじめに個人の人生・生活に着目し、それから個人を取り巻く社会、家族、地域社会、さまざまなネットワーク・組織といったテーマに徐々に考察の射程を拡げてゆく。それぞれのテーマについて、その定義や構造、成立における歴史的背景をおさえるとともに、学生のみなさんにとっても身近であろう歴史的な問題について、社会学的な視点で考察してゆく。	1後	15		○		

○		社会の理解 (社会保障論)	各領域の社会保障制度の取り組みについて取り上げ、どのように行われているか学ぶ。また社会保障に関する報道等にも関心を向け、国民の意識についても考える。	2後	15		○		
○		社会の理解 (高齢者福祉論)	「社会の高齢化」「個人の高齢化」について、理解を深める。一般に望ましくないものとして語られることが多い『高齢化』という現象を一面的にとらえるのではなく。メリット・デメリットを併せて考えることができるようにする。また、各種法制度についても制度の概要のみならず成立背景などを知り、多面的に考察するための基礎を身につける。	1前	15		○		
○		社会の理解 (介護保険法)	介護保険という制度が創設されるに至った当時の社会背景と、介護保険制度に求められた目的について、隣接諸領域の社会状況と併せて理解する。介護保険では、どのような者が対象となり、どのような方法によって、どのような手続きを踏む事で、どのような財政構造に基づき制度が展開されるのか、総合的な理解を図る。また、具体的サービス提供過程においては、どのような組織や専門職が関わっているかについて学ぶ。	1前	15		○		
○		社会の理解 (障害者の自立を支える制度)	障害者総合支援法の内容のほとんどが、現行の「障害者自立法」である。さまざまな課題や問題が指摘されていた障害者自立支援法ですが、「自立」を支える制度としては必要な制度である。授業を通して、制度の問題点から浮かびあがった障害者の地域生活と自立について、考えることができるようになる。	2前	15		○		
○		社会の理解 (介護実践に関する諸制度)	障害者の権利を保障するための制度の種類や内容を学び、介護実践の場面で権利を保護するための制度はどのように活用されているかを理解できるようになること。また、介護職に求められる権利保護の視点について学ぶ。	2前	15		○		
○		法学	1 法の成立過程を民主的手続きについての知識を踏まえながら学ぶ。 2 憲法の基本理念について、具体的事例を通して学ぶ。 3 民法規定の概要を知り、法律を元に具体的な判断がどのように行われるのかを学ぶ。 4 労働関係の方規定を知り、働くにあたってのルールや労働者の権利を学ぶ。 5 福祉現場における人権擁護について学ぶ。	1前	30		○		

○		経済学	経済について知り考えるために必要な考え方とツールを学ぶ。また、経済学的な考え方を習得してもらうために、その他の話題にも触れる。経済学の考え方は単純だがとても多くの問題を考えることができる。お金にまつわるだけでなく、人間や企業、政府の行動、そしてそれらの相互作用について考えることができる。それを新聞やニュース等の最近の話題について考え理解し、適切な行動を選ぶように学習する。	2前	30		○		
○		介護の基本 (介護概論 I)	介護の歴史や諸外国との比較、介護を必要とする人の生活を学び、生活や自立とは何か改めて考え直し、介護福祉士の役割や倫理について学ぶ。	1前	60		○		
○		介護の基本 (介護概論 II)	介護を実践するものは、基本的人権の尊重・尊厳などを理解した倫理を求められる。介護技術が単なる技法ではなく、利用する人にとって何が幸せにつながるのか、その多様性を考えられるようにする。また、介護を提供する人は利用する人を守るだけでなく、自分自身を守る必要がある。介護におけるリスクと安全の確保ができるようになることを学習する。	2前	30		○		
○		介護の基本 (リハビリテーション I)	リハビリテーションの理念や関連職種・流れなどの概要及び、代表的疾患のリハビリテーションについて学ぶ。さらに、リハビリテーション的な視点をどのように介護に活かしていくか、自立支援につながる介護とは何かを学習する。	1後	15		○		
○		介護の基本 (家政学概論)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家族と家庭生活、家庭経済と消費生活、食生活と栄養、食中毒とその予防などを学習し、身近な家庭生活から介護を必要とする人の生活を考える。 ・ 障害者が日常生活においてどのようなバリアーの中で暮らしているかを実際に体験する中で学ぶ。 	1前	30		○		
○		介護の基本 (生活文化論)	高齢者や日本人が大切にしてきた「しきたりや文化の再認識を通して、その人らしさとその人の生活を大切にしていくことが求められる介護について考えるきっかけとなる授業を行う。また、その人らしい「生活」を提供するために、介護者として知っておいてほしい行事や習わし、そしてマナーについてはどうしたら良いか授業を通し、考察できるように、身近な生活習慣やならわしについて紹介されたものを理解する。	2後	15		○		

○		介護の基本 (レクリエーションⅠ)	福祉にかかわる中で、基本的な考え方や現場を意識した演習を通して、レクリエーション支援のあり方について学ぶ。	1前	30			○	
○		コミュニケーション技術演習Ⅰ	介護福祉士として現場に出た際に、必要となるコミュニケーション技術を講義で理解したうえで、演習する。	1後	30			○	
○		コミュニケーション技術演習Ⅱ	介護実践においてさまざまな特性をもつ利用者やその家族と信頼関係を構築できるように、またチームのコミュニケーションの重要性を理解し、それぞれの場面における適切なコミュニケーション技術をロールプレイを通して習得する。さらに、介護実践において重要とされる記録物の意義、書き方、取り扱い方を理解し、介護実践に役立てる。	2前	30			○	
○		生活支援技術 (住環境整備の視点)	バリアフリーなどに関する基本的な知識を身につけるとともに、福祉現場の実情に対応する人間力を目指す。そして、模範回答のない問題に対しても考える力を身につけることを目指す。	2前	15			○	
○		生活支援技術 (入浴・清潔・身支度の介護)	人が生きていく上で、身支度を整えることはかかすことはできない。では、身支度とは何か。介護福祉士として、どのような視点を持ち、どのような介護を行うことが求められているのか、その人らしさということを身支度から学ぶ。	1前	30			○	
○		生活支援技術 (移動Ⅰ)	その人らしい生活を支えるための移動とは何か、単に「動く」ということではない、生活の一部であることを理解して、介護福祉士としてどのような視点で考え、何が求められているかを学ぶ。	1前	30			○	
○		生活支援技術 (移動Ⅱ)	生活範囲の拡大が図られたり他者との交流が制限される移動において、どのようなことが自立につながるのかを考えられ、実践するための選択肢を複数検討できるようになるための学びをする。安全で気兼ねなく移動でき、利用者の状態・状況に応じた介護の留意点が理解できるようになることを目指す。	2後	15			○	
○		生活支援技術 (食事Ⅰ)	1 食事の意義と目的について理解し栄養と食事の基礎知識について学習する。 2 ICFの視点から利用者の状態に合わせた適切な食事介護方法について学ぶ。 3 「おいしく食べること」を支える介護の工夫や、環境づくり、好みへの配慮、調理の工夫、福祉用具・自助具の活用について学び演習する。	1前	15			○	

○		生活支援技術 (食事Ⅱ)	1 実習体験を基に健康の維持・増進のための食事の意義と目的について学習し介護を必要とする利用者の食生活について考える。 2 栄養と食事の基礎知識について学習するとともに、特に、身体機能低下や咀嚼・嚥下障害、感覚障害、認知障害等の食事介護を必要とする利用者の状態に応じた適切な食事介助の技法を演習でシュミレーションしながら学習する。	2後	15			○	
○		生活支援技術 (排泄Ⅰ)	排泄の基礎的知識と技術を理解していくとともに、「生活」と「排泄」がどのように関わっていくかをグループワークや実技を中心に学習する。	1前	15			○	
○		生活支援技術 (排泄Ⅱ)	排泄Ⅰで習得した破壊に関する基礎知識を生かし、より個別的で自立に向けた援助ができるように演習を通して学びを進め、介護現場で実践できる技術を身につける。また、排泄介助の方法を学ぶだけではなく、援助が必要な人の社会生活全体にも目を向け、介護過程を意識できるよう学習を展開していく。	2前	15			○	
○		生活支援技術 (家政Ⅰ)	「人は一日に何を(食品・栄養素)、どのくらい(摂取量・摂取エネルギー)食べればよいのか」それを「献立」として具体化できることを目指す。	1通	30			○	
○		生活支援技術 (家政Ⅱ)	1 基礎縫いを通して、各種用具の安全な取り扱い方や適切な被服管理方法や技術を習得し、応用作品を製作することによって、個性を生かしたデザインや機能性の学習をする。 2 咀嚼・嚥下障害など、身体の機能について学習し、介護を必要とする人に対し、適切な調理形態、栄養について理解を深める。	2通	30			○	
○		生活支援技術 (睡眠)	睡眠の仕組みについて学び、その人らしさを支える介護とは何かを理解したうえで、利用者の睡眠状態をアセスメントし、安眠できる環境を提供できるよう知識を身につける。	1前	15			○	
○		生活支援技術 (障害者ケア)	講義・演習・当事者から直接話を聞く機会を交えながら、身体面のみではなくその背景にあることを含めて支援について考えていく 肢体不自由の原因疾病を理解したうえで、肢体不自由のある人の生活を事例から学ぶ。当事者のみではなく、家族を含めた周囲の環境に配慮する視点も習得する機会とする。当事者の持つ力を引き出す関わりを考える。	1後	15			○	

○		生活支援技術 (終末期ケア)	死について変化や現状を理解するとともに、自分の中の死生観について触れる時間をもつ。高齢者の看取りの場として在宅と介護施設での考え方について実例をもとに理解する。がん末期のホスピスケアの実際と現状について学習する。	2後	15			○	
○		生活支援技術 (リハビリテーションⅡ)	1 障害別(認知症・パーキンソン病・骨折・ロコモ症候群)に、その疾患と障害とリハビリテーションを学習する。 2 転倒の機序を学習し、転倒予防へのリハビリテーション的視点を学習する。	2前	15			○	
○		生活支援技術 総合Ⅰ	1. 根拠に基づく介護を自ら調べ、考える力をつける。 2. 利用者の状態を体験し、気づきのある介護ができる。 3. 介護の技術だけでなく、対象者を主とした実践力。応用力を養う。	1後	15			○	
○		生活支援技術 総合Ⅱ	事例を基にした介護技術の展開を行う中で、あらゆる介護場面に共通する基礎的な介護の知識・技術を振り返り、利用者・家族の立場に立った介護実践の根拠を検討する。	2後	15			○	
○		介護過程Ⅰ	・利用者の状態を正しく理解するための観察方法、アセスメントのポイントを学ぶ。 ・QOLとは何かを学ぶ。 ・介護行為の根拠がどのような視点の上に実践されているのか学ぶ。	1通	75			○	
○		介護過程Ⅱ	1年次より学んできた社会の理解とところからだのしくみと介護を総合的に実践する力を身につけられるようになる。実習で生活とは何かを学ばせていただき、情報収集、判断解釈、課題の明確化、介護計画の立案、実施、評価という一連の過程の根拠を学ぶ。誰が読んでもわかりやすく、目的を共有し行動できる介護計画が作成できるようになる。	2通	75			○	
○		介護総合演習Ⅰ	1. 施設実習に必要な知識を学習することによって目指すものが理解できる。 2. 実習を振り返り、自己覚知をすることで自分の特性を理解し、知識や技術・人間性などの課題が明確になる。	1通	75			○	
○		介護総合演習Ⅱ	実習効果をあげるためのオリエンテーション・目標作成・記録指導を行うために、事前、事中、事後の指導・報告会などによって必要な知識や技術、介護過程の展開など個々の学習到達状況に応じた総合的な学習とする。	2前	45			○	

○		介護実習Ⅰ	<ol style="list-style-type: none"> 1 利用者と人間的なふれあいを通じて、利用者の身体状況や生活状況について知る。 2 学生自身の生活観・価値観で物事がみられるようになり、QOLの意味に気づく。 3 学んだ知識技術に基づき介護を体験する中で技術を習得する。 4 介護福祉士の役割・求められていることを知る。 5 さまざまな福祉施設の役割や機能、そこで働く専門職の役割を知る。 	1後	225				○
○		介護実習Ⅱ	<ol style="list-style-type: none"> 1 学校で学んだ知識や技術に基づいて利用者との人間的な関わりを深め、利用者が求めている介護の需要に関する理解力、判断力を養う。 2 実習指導者の指導を受けながら介護の計画の立て方や記録の仕方について学び、チームの一員として介護を遂行する能力を養う。 3 施設の役割や機能、その運営やサービス全般における介護の職務の理解を深める。 	2前	225				○
○		こころの理解	人のこころの基本的なしくみとして、「感覚・知覚・認知のしくみ」「人間の行動を引き起こすこころのしくみ（動機付け・感情・ストレス）」「社会的人間としてのこころのしくみ（こころの発達）」の3つの領域について理解を深める。	1前	30		○		
○		からだの理解	テキストや資料、スライドなどを使用し、医療の基本的な専門用語や名称を解説しながら人体のしくみや働きを学ぶ。また、要介護者に起こりやすい疾患や症状も関連付けて理解できるようになる。	1前	30		○		
○		こころとからだのしくみⅠ	<ol style="list-style-type: none"> 1 人体の構造と生理機能を理解し、介護の根拠となる基礎知識を習得する。 2 バイタルサインとしての生命兆候の意味を理解し、正確な測定方法を習得する。 3 活動に関する身体機能を理解し、活動低下による心身の機能変化とケア方法を学習する。（到達目標として）からだとこころのメカニズムを知り、介護の根拠を考え、適切な行動がとれる介護福祉士を目指す。 	1前	30		○		

○		こころとからだのしくみⅡ	介護の基礎となる根拠を学ぶ教科である。からだのメカニズムから、自分の健康のための生活のあり方を考え、介護を必要とする人がより健康的に安全に、生活を継続するための知識を習得する。	2前	30		○		
○		発達と老化の理解（人間発達学）	人間は障害にわたって発達し続ける存在であること。介護福祉士として接する利用者は一人一人が人間として豊かに発達していくことが可能であること。介護福祉士として尊厳ある生活を支援していく立場として生理的発達と心理的葉龍、環境が及ぼす影響等を理解し、老年期の高齢者との関わり方、保健医療職等チームとしての関わり方、連携のとり方を学習する。	1前	30		○		
○		発達と老化の理解（老齡健康論Ⅰ）	1 発達の観点から老化を理解する。 2 老化に伴う心身の特徴と、高齢者に多くみられる疾患に関する基礎知識を学習する。 3 高齢者の生活上の留意点について学習し、援助の基本的考え方について学習する。	1後	15		○		
○		発達と老化の理解（老齡健康論Ⅱ）	老年期に多い症状や疾患について学習し、日常生活への影響および留意点について考えていく。また、高齢者の介護・援助を行うための基本的な知識を習得する。	2前	15		○		
○		認知症の理解Ⅰ	認知症ケアの現状を理解し、目指すケアの方向性を明確にもつことができるように基本的な事項について学ぶ。基本的な事項として、認知症の症状・診断・治療・予防などの医学的基礎知識、認知機能が障害された人の心理や生活の理解、BPSDの理解とかわり方、本人に残された生活機能のアセスメントと対象の合わせたケア、本人に安心と満足をもってもらい信頼を構築するためのコミュニケーションなどについて学び認知症の人が自分らしく生きるための支援を考える。	1前	30		○		

○		認知症の理解 Ⅱ	高齢化が進み、医療・福祉の現場（病院や施設）は勿論のこと地域で生活している高齢者を含め、認知症の人が多く見られる現在、ケアに関わるものとして、認知症の正しい理解が不可欠である。認知症について広く学ぶことによって、実習の原板で安心・安全のもと関わる体験ができるよう、また、専門職としての知識が豊かになり目の就職に自信が持てる。	2前	30		○		
○		障害者の理解 （障害者福祉 総論）	1 介護福祉士に求められ障害者福祉の理念について理解する。 2 障害者福祉の歴史と制度について学ぶ。 3 障害者の生活とその生活を支える制度について、権利養護や自立についても学習する。	1前	15		○		
○		障害者の理解 （障害者福祉 各論Ⅰ）	心身の様々な障害が、生活にどのように支障をきたしているかを理解し、その人らしく生活していくために必要な支援について学ぶ。家族・専門職・地域のネットワークにつなげ積極的に社会資源を活用し、可能な限り自立し、生きがいをもてる生活が送れるようにするため、介護福祉士が果たす役割について学ぶ。	1後	15		○		
○		障害者の理解 （障害者福祉 各論Ⅱ）	1 障害のある人の心理や身体の機能に関する基礎的な知識を習得する。 2 障害をもちながらも自立した生活を継続するための介護の視点を理解する。 3 障害によって必要な医学的なケアの理解と介護福祉士として支援のあり方や多職種との連携の必要性を理解する。 4 介護している家族も含めた支援の重要性を理解する。また、地域における社会資源の活用方法を理解する。	2前	30		○		
○		医療的ケアⅠ	介護福祉士が医療的ケアを行う意義と目的を理解し、安全に実施するための基本的知識です。医療倫理、医療行為に関する法律、医療と介護の連携の重要性について理解し、医療的ケア実施にともなうリスクマネジメント、感染予防に関する正しい知識を身につける。	1後	20		○		

○			医療的ケアⅡ	介護福祉士が医療的ケアを行う意義と目的を理解し、安全に実施するための必要な知識・技術を学ぶ。実施にあたっては、医療的ケアの必要な人の心身の状態を理解し、観察力と報告、医療職との連携についても学ぶ。	2後	60		○	
○			医療的ケア演習	介護福祉士が医療的ケアを実施するための必要な知識を学び、シュミレーターを利用し一人で確実にいえるよう技術の習得を目的とする。また、演習を繰り返し行い、緊急時の対応が具体的に実施できるようになることを目指す。	2後	60		○	
合計					58 科目	1,940 単位時間 (117 単位)			